

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ばんびーにくらみなみ			
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 7日	～	令和7年 3月 7日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28名	(回答者数)	27名
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 7日	～	令和7年 2月 28日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 4月 30日			

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	理学療法士・作業療法士・児童指導員など、多職種による支援体制を整備し、専門的かつ多角的なアプローチを実践しています	理学療法士・作業療法士・保育士などの専門職が在籍し、それぞれの専門性を活かした直接支援を通じて、子どもの発達段階に応じた質の高い療育を提供しています	外部研修や勉強会への参加を通して、職員の専門性と対応力をさらに高め、事業所全体の支援力向上に努めます
2	個別療育で基礎的な力を育み、集団療育ではそれを応用する形で、社会性や協調性の発達を促しています	子どもたち一人ひとりの特性や発達状況に応じて個別療育を行い、基礎的な力を育むとともに、集団活動ではルール理解や社会性の育成を意識した支援を実践しています	子どもを中心とした多職種協働による支援体制の強化を目指します
3	子どもたちの満足度が高く、保護者からも「子どもが行きたがる」との声を多数いただいています	保護者との関係構築を重視し、支援方針の共有や相談対応を丁寧に行うことで、家庭との連携を意識した支援を実践しています	子どもたちの、多様な発達段階に応じた支援提供のため、活動プログラムが固定化しないよう工夫しながら、職員間での立案・見直しを継続しています

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流機会が設けられておらず、相互理解やつながりを深めるための場の不足が課題	幼稚園や保育所へのお迎え後にそのまま自宅送迎する体制が多いため、保護者同士が直接顔を合わせ、情報共有できる機会が限られている	保護者間の交流を促進するため、保護者会など、家庭と事業所をつなぐ機会づくりに取り組む
2	災害時の対応について、保護者への周知が十分でない場面があり、緊急時の対応体制について保護者の理解と信頼を高めることが課題	災害訓練は定期的実施しているものの、実施日や時間帯によって参加できる児童が限られ、ホームページでの報告も十分に周知されていない状況	災害対応に関する情報を文書や掲示物でも定期的に発信し、ホームページと併せて多方面からの周知を図ることで、保護者の理解と信頼を高めていく
3			